



# まつざき真琴

## 県議会ニュース

日本共産党

鹿児島県議会ニュース  
2011年8月7日号

発行／日本共産党鹿児島県議団 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1  
★TEL/FAX 286-3977 E-mail [kengidan@jcp-kagoshima.com](mailto:kengidan@jcp-kagoshima.com)  
★ホームページ <http://jcp-kagoshima.com>  
★ブログ『まこっちゃんのいっぺこっぺ奮闘記』<http://matsuzakimakoto.synapse-blog.jp/>

## 九州電力は事実を語れ！ 公開質問状に対して肝心なことには答えず

日本共産党のまつざき真琴県議は、29日県庁で記者会見し、九州電力のやらせメール問題についての公開質問状に対する九州電力の回答に対して見解を述べ、国への報告書は「事実をゆがめたつじつま合わせの作文」ときびしく批判しました。以下、回答に対する見解です。

### 九州電力への公開質問状に対する回答についての見解

去る7月20日に日本共産党鹿児島県委員会と党県議団が提出した公開質問状に対して、昨日、九州電力より、口答でその回答がなされた。

その内容は、別紙に示している通りであるが、政府への「報告書」の内容を繰り返す中身になっており、こちらの疑問に全く答えていない。

【疑問点1】については、原子力発電本部部長（以下、部長）には、どうして三者の「賛成意見の投稿を増やすことが必要」という認識が伝えられなかったのか尋ねているが、その理由について触れられていない。

【疑問点2】については、部長から「番組の周知」だけしか指示されていない課長級社員が、どうして「三者」と同じ「認識」に立って「賛成意見の投稿を増やす」ことを要請しているのかの説明を求めたが、「自らの判断で」として、あくまでも部長からの指示ではなかったとしている。

最も不可解な回答が【疑問点3】についてである。この“やらせ”メール問題から派生して、過去の様々な住民向け説明会やシンポジウムにおいて、九州電力が社員や取引先などに参加を要請していたことが明らかになっているが、これまでの新聞紙上での広報や川内原発への見学者の組織など、九州電力が原発推進のための世論づくりを力を注いできたことは誰もが知るところである。その中で、玄海原発の2、3号機の再稼働をめぐる重要な局面で、「番組周知を指示することが協力会社や当社原子力部門社員等に対し、賛意の投稿を要請する行為につながり、説明番組に影響を与えることを全く認識していませんでした。」というのは、原子力発電本部の幹部社員である部長として、あり得ない認識である。

これらの回答の内容から考えても、わが党が指摘したとおり、原子力発電本部部長には、「三者」の「共有」した「認識」が伝えられ、課長級社員にも、その「認識」も含めて「賛成意見の投稿を増やす」よう指示がなされており、「報告書」のその部分は、県議会の発言につじつまを合わせた形で作文がなされていると断じざるを得ない。

“やらせ”メール問題は、福島第1原子力発電所における重大事故の被害が進行中であり、多くの国民が原発に対する不安を抱き、被害を心配している最中に、原子力発電所の運転に責任を持つ電力事業者が、起こした「不祥事」であり、許されない行為である。「報告書」は、言わば「失墜」した「信頼関係を再構築」するためのスタート地点に立つものであり、ここで、更に事実をゆがめることは断じて許されない。

わが党は、第三者委員会に本事実の内容を伝え調査の要請を行うと共に、県議会特別委員会においても、全容の解明のために全力を尽くしていくものである。